

発表タイトル	観相資料の学際的研究 総論 (相田)
発表者所属名	日本文学研究専攻 准教授
発表者氏名	相田 満
<p>※相田満 (総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻・准教授：研究代表者) 専門 和漢比較文学・説話文学研究・人文情報学・博士 (文学)</p> <p>人相見 (面相) に代表される「観相」の歴史は古く、その裾野は広い。医学における望診・絵画における肖像の描き分け、言説方面では王朝創世神話の演出、才人説話の潤色など、古来より多くの痕跡を残してきている。</p> <p>日本における前近代・近代の相書は世界随一の残存量を誇ることから、その知的体系の厚みが相当なものであった事は想像に難くないが、現代の占術界では人相専門の術者は稀少である。その理由は、人相は変化しやすいために確度が高くなく、今では四柱推命や易のような他の術法が主流だという。このことは、調査を行った台湾・中国でも同様で、人相見の衰退は世界趨勢といえるかもしれない。</p> <p>そこで、本研究では上記現状に鑑み、古典籍原本による観相学の知識体系の整理を志して「観相資料の文学的研究」(平 21-23 年度学振挑戦萌芽)・「観相資料の学祭的研究」(平成 24~26 年度総合研究大学院) の補助を受けて共同研究を進め、データベース構築 (観相トピックマップ) と内外の実態調査 (東大阪市と台湾台北市・中国福建省泉州市)、および古代から近代までの相書以外の書からも関連する言説の収集と分析を行ってきた。</p> <p>本研究で特徴的な研究活動としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> A. 実際に観相師に占ってもらうこと。 B. 相書の書誌調査および収集を行い整理 (データベース化) と分析を行うこと。 C. 日中における観相の言説を集め、相書と照らし合わせて分析すること。 <p>などが挙げられる。いずれにしても観相の具体相や知見を知り、その影響と言説との照らし合わせを行うことが、本研究活動の主目的である。</p> <p>研究を進めてきた過程で痛感したことには、観相の説の継承性の高さと、その裾野の広さである。また、すでに読んだ事のある作品でも、観相の視点で読み返すと、違った視界が開けてくることが多いことが、本研究の面白さであろう。問題は想像以上に大きく、様々な課題が今なお浮かび上がってくるが、今回のポスターでは、その成果のごく一部を以下の諸点にまとめて示しておいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 肖像画と観相術との関連性が説かれる古典的言説 ② 異相 ③ 観相トピックマップデータベース ④ 感性検索 SD 法 (semantic differential technique) による統計結果 	